

第八縁 善業についての現報説話。三宝絵・
法五、扶桑略記・推古天皇条に引用。今昔物
語集・十四ノ三十六に書承。

一底本訓釈「龔見々之比太留」。二大通方広
懺悔滅罪莊嚴成仏経をさす。三卷。同経に「是
方広経典」とある。下文の「方広経」もこの経。
三未詳。本説話以外に所伝をみない。底本訓釈
「縫（奴比乃）」。四いかなる宿業か、という具
体相は述べられない。五長生きをして人にき
らわれることは、善行をおこなって早く死ぬこ
とに及ばない。「長生為レ人所レ厭」と「行レ善過
死」とを比較し、「行レ善過死」をえらぶ。原文
「為人所厭」。「為一所一」の文型で被動が示され
るばあい、「為」は平声で「一の一とところとなる」
と訓むべきなのだが、大坪併治によれば訓点資
料では「一のために一と考えられたか。本書では
普通。去声の「為」と考えられたか。本書では
「一のために一と訓まれた例はなく、
上卷十二縁の「為人畜所履」の底本訓釈に「畜（介
毛乃爾）」「履（不万□）（留か）」とあることより推
して、「一に一と訓んでおく。六大通
方広懺悔滅罪莊嚴成仏経・上に「若欲（受）持誦（誦是経）、当（下）淨洗浴、著（淨）衣服、淨（掃）坊舎、
以（懸）繒幡蓋、莊（嚴）室内」とある。七未詳。
中卷十二縁にも同じ語がみえる。八底本訓釈
「澡浴（二）、加波安見天」。九先潔（其身）、香水澡
浴」というイメージは、下卷十縁の「每（大小）便
利、洗浴淨（身）」に結びつく。九大通方広懺悔

滅罪莊嚴成仏經には多くの菩薩名が連ねられた部分がある。一〇原文「忍勞」。依頼する時に用いる語か。優填王經に「教えてください」という文脈で「大人勤勞教授」とみえる「勤勞」と同意であらう。